

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第2区分

【発行日】平成24年12月20日(2012.12.20)

【公開番号】特開2011-167702(P2011-167702A)

【公開日】平成23年9月1日(2011.9.1)

【年通号数】公開・登録公報2011-035

【出願番号】特願2010-31284(P2010-31284)

【国際特許分類】

B 2 3 K 26/38 (2006.01)

B 2 3 K 26/20 (2006.01)

B 2 3 K 26/16 (2006.01)

B 2 3 K 26/10 (2006.01)

B 2 3 K 26/08 (2006.01)

【F I】

B 2 3 K 26/38 3 2 0 B

B 2 3 K 26/20 3 1 0 J

B 2 3 K 26/16

B 2 3 K 26/10

B 2 3 K 26/08 D

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月6日(2012.11.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 1】

ここで、図5に示すように、加工ヘッド18は、保持部材16の回転中心Oから延在する線、すなわち、保持部材16の半径(仮想線M1)に対し、回転方向上流側にオフセットされて該保持部材16に対向する。すなわち、レーザ光Lの仮想的な軸線M2は、仮想線M1と角度θをなす。以下においては、便宜上、この角度θを入射角と指称する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 5】

この場合、吐出ノズル128から圧縮エア等が吐出されるとともに、吸引ノズル130を介しての吸引が行われている。圧縮エア等が吸引ノズル130に指向して流通しているので、空気膜は、圧縮エア等に搬送されて吸引ノズル130に向かう。このことから諒解されるように、圧縮エア等は、空気膜を吸引ノズル130に向かって搬送する搬送媒体として機能し、これにより、空気膜が効率よく除去される。